

令和6年11月20日

第6学年保護者様

四街道市立吉岡小学校
校長 谷口 育男

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

朝晩の寒暖差が大きく体調管理が難しいこの時期ですが、風邪など引かないようご自愛ください。

さて、表題の件につきまして、本校6年児童の結果と分析、その考察についてまとめましたので、お知らせいたします。校内でもその結果をこれまでの教育活動の成果と課題として重く受け止め、今後の教育活動に積極的に生かします。ご家庭でも、是非今後の教育の一助としてください。

なお、本調査は、4月18日に実施されたものです。実施日から7ヶ月を経過しているため、実態の変容を加味してお読みいただけると幸いです。

1.教科に関する結果

【国語】

	本校	千葉県	全国
教科全体	61.0	67.0	67.7
言語の特徴・使い方	54.9	63.2	64.4
情報の扱い方	91.3	86.8	86.9
言語文化	71.7	76.1	74.6
話す・聞く	44.2	58.7	59.8
書く	65.2	66.9	68.4
読む	67.4	71.0	70.7

【算数】

	本校	千葉県	全国
教科全体	54.0	63.0	63.4
数と計算	54.0	65.9	66.0
図形	57.6	65.5	66.3
変化と関係	38.4	52.1	51.7
データの活用	56.0	61.8	61.8

2.教科に関する分析と考察

	全体的には、県平均や全国平均を下回ります。特によくできた領域は、「情報」です。課題となるのは、国語の基盤となる「話す」と「聞く」です。まずは情報を受信し事象を理解する聞く、この力が欠けていると話し手の意図や内容が正しくつかめないのも、思考する以前に解決への道をたどれません。次に情報を発信する「話す」、この力が欠けていると相手に自分の思いや考えを理解してもらうことが困難になります。教科や単元を問わず、対話的な場面を設定し、聞いて話す活動を充実させたいと考えています。
算数	正答率が、千葉県や全国の平均を下回っています。特に習得率が低いのは「変化と関係」や「数と計算」です。「変化と関係」領域は、割合や比例を中心とした問題群で構成されていて、基準値と比較値の関係性の把握が肝となります。「数と計算」の領域は、一言で言えば加減乗除の四則演算です。算数の基礎を担う大切な内容となります。身につけた知識や技能を活用する場面が多い領域です。従って習得した内容が生きて働くために、活用する場面を設定し児童が主体的に学習できるよう環境を整えたり、基礎基本の徹底から確かな学力の定着を目指したと取り組みを全学年で取り組んでいます。

3.設問に関する分析と考察

	算数科では、記述式の設問の正答率が低く4割以下です。これも、全国データに見られる傾向で、根拠や理由等、言語を構築して表現する文化が徐々に失われつつあるとも考えられます。まずは、授業の中で記述したり説明したりする場面を設定し、日常的に取り組んでいるところです。また、国語科では、自分の思いや考えを書いたり、話したりする場を単元を問わず設定し取り組みを進めています。周囲の大人達が、言語表現を丁寧にそして大切に扱うこと、児童の身近に本があり親しめる環境を作ること等、できることから始めたいと考えます。
--	---

3.質問紙の回答に見る学習環境に関する分析と考察

	家庭生活に関しては、起床や就寝等”規則正しい生活”をしていると回答した児童が多いです。一方で、家庭学習に取り組む時間は、県や全国に比してかなり少ない状況です。 学校生活に関しては、8割の児童が学校が楽しいと答えている一方で、5人に一人が学校が楽しくないと回答しています。夢や目標の有無、相談相手の存在、幸せ感等自己存在感に係わる質問への回答も平均より低く、心配な点です。 学習面に関しては、国語算数への関心が低く、理解に不安を感じている児童が多いです。学習面に関しては、意欲化を図るための学習形態の工夫を各教科で工夫改善を図りながら取り組んでいるところです。
--	--